

三浦市議会議員（無所属）

いしざき 遊太

ゆうた



編集・発行

石崎 遊太 / 令和8年8月発行 / 南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115

市営下宮田住宅跡地をめぐる問題

市は6月議会で、市営下宮田住宅跡地の原状回復工事について、追加工事を経て土地の返還を完了したと報告しました。しかし、現地を視察すると、畑からはこぶし大以上の石やコンクリート片と思われるものが多数確認されました。**出口市長は議会答弁でも、設計や工事は適切だったと繰り返し主張しましたが、この状態が適切だとは到底思えません。**地権者の一人は「畑として当たり前姿に戻してほしい」と切実に訴えています。



私が考える本事業の問題点

1. 約1600万円の工事費を投じながら、畑としての原状回復が完了していない
2. 現地調査が不十分なまま工事を設計し、追加工事を「事故繰越し」として処理
3. 他の業務に従事できたはずの市職員を、石拾い作業に17日間で延べ71人動員
4. 市職員の作業を委託工事と同時に行ったことで、事業者との責任区分が不明瞭
5. 出口市長が工事完了前に、土地返還による賃借料削減を自身の実績として発信

農業を基幹産業とする三浦市が、農地の状態や原状回復を軽んじたとすれば、到底看過できるものではありません。本件は、今後の土地賃貸借や委託業務の適正性だけでなく、本市の農政に対する姿勢にも関わる重要な問題です。今後もしっかりと追及し、適切な原状回復を求めています。



PROFILE -プロフィール-

いしざき 遊太

ゆうた

HP、各種SNSなどは
こちらからどうぞ！！
過去のみうらぼReportも
HPにアップしています。



1991年4月生まれの35歳。幼馴染の妻とともに、娘（3歳）と息子（1歳）の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票をいただき2位で当選。2025年7月に副議長就任。



材料

※3〜4人前

- ・ナス 3〜4本
- ・玉ねぎ 中1個
- ・にんじん 1/2本



- ・ピーマン 1/2個
- ・ベーコン 70g
- ・トマト 1個
- ・にんにく 1片
- ・オリーブ油 大匙5
- ・白ワイン 大匙2

- ・塩 小匙1
- ・酢 大匙2
- ・砂糖 小匙2
- ・こしょう 適量
- ・バジル 適量



作り方

1. 野菜とベーコンは1.5センチの角切りに、にんにくはみじん切りにしておく。
2. オリーブオイル・にんにく・ベーコンを弱火で炒め、香りが出たらナスを焼く。
3. ナスに焼き色が付いたら玉ねぎ、にんじん、ピーマン、塩(半量)を加えて炒める。
4. 野菜がしんなりしたらトマトと白ワインを加え、水分が少なくなるまで加熱する。
5. 酢と砂糖を加えてさらに3分ほど煮詰め、残りの塩で味を調える。
6. 皿に盛りつけ、お好みでこしょうとバジルを添える。

昨年もナスが主役のレシピ（ナスのカルパッチョ）を掲載しましたが、今回も三浦のナスと夏野菜を使った一品です。温かいままでも、冷やして食べてもよし。夏の常備菜として、我が家の定番メニューになっています。バゲットにのせれば、ちょっとおしゃれな一品に。野菜をしっかり炒めて、ベーコンとともにうま味を引き出せば、シンプルな味付けでも十分おいしく仕上がります。オリーブオイルは多く感じるかもしれませんが、ナスに油をしっかりと吸わせ、トロッと仕上げるのが個人的には好きです。



食いしん坊なこどもたち

みうらみらいラボ 会員募集中

みうらみらいラボは、代表・いしざき遊太との対話を通じて、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ことを目的とした政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、右の二次元コードよりご確認ください。お電話にて入会のご意思をお伝えいただく際は、以下の情報をお知らせください。
①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④（あれば）メールアドレス
上記をお伝えいただければ、入会手続きは完了です。
なお、市内在住の会員の皆様には、『みうらぼReport』を毎月お届けいたします。



質問の全体像

私が行った令和8年第2回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1.三浦市の療育環境について

- (1) 早期発見から支援につなぐ体制
- (2) 療育支援体制の現状と課題
- (3) 療育拠点の整備と中核機能の必要性
- (4) 保護者及び家族への支援

2.三浦市の学校教育環境について

- (1) 三崎地区の小学校を取り巻く現状
- (2) 今後想定される課題と選択肢
- (3) 過去の学校統合を踏まえた合意形成の進め方
- (4) 三浦ならではのグローバル教育とキャリア教育

一般質問には、質問と答弁を合わせて一人当たり2時間以内というルールがありますが、今回は初めて、制限時間をほぼ使い切るほどの長丁場となりました。発言の全文は、私が文字起こししたものをブログに読みやすく掲載しています。かなりの分量ですが、気になる箇所だけでも拾い読みしていただければ幸いです。下記の二次元コードからご覧ください。



コチラの二次元コードより
発言全文をご覧になれます



いしざき 遊太 一般質問

三浦市の療育環境について

療育とは発達の遅れや障がいのあるこどもに対し、その特性に応じた支援を行い、地域で主体的に生活する力を育む取り組みです。全国的にニーズが高まる中、もはや一部の家庭だけの課題ではなく、子育て支援、教育、地域福祉を横断する重要な政策領域です。

本市では長年、三浦市心身障害児生活訓練会（現みうらファミリー広場SUP）が、制度の枠に限定されない身近な療育の場として大きな役割を果たしてきました。経験豊富な保育士がこども一人ひとりに寄り添い、保護者を含めて地域で支えてきた実績は、本市が誇るべき取り組みの一つです。一方、市の療育政策全体を見れば、制度の変化に伴い支援の選択肢やニーズが多様化する中、相談や専門的支援、関係機関の連携を含め、新たな支援体制へと発展させる必要があります。

とりわけ重要性を増しているのが、当事者への情報提供やサービス利用を支える相談支援事業所です。出口市長の言動と対応によって福祉関係機関との信頼関係が崩れていることは、これまでも議場で問題として取り上げてきたとおりです。特に多くの利用者を支援していたチームブルーが本年3月に閉所した影響は甚大であり、私のもとにも多くの利用者から不安の声が寄せられています。基幹相談支援センターの機能も大きく後退し、一部ではセルフプランによる対応を余儀なくされるなど、予断を許さない状況です。**出口市長には、あらためてこの事態を招いた責任を重く受け止めて行動するよう強く求めました。**

また、三浦市は、児童発達支援センターやそれに代わる拠点機能も持たない県内唯一の市です。市の計画では令和8年度末までの整備が目標とされていますが、**いまだ具体的な見通しさえ立っていません。**施設などハード

面の整備が難しくとも、関係機関の連携による中核機能を早急に具体化すべきです。

家族支援も十分とは言えません。市内には障がい児の宿泊を伴う短期入所の受け皿がなく、障がい児本人への支援の陰で、課題が見えにくいきょうだい児への支援も必要です。こうした現状を踏まえ、**障がい児本人のみならず、家族全体への支援強化を求めました。**

発言の中での主要要望

1. 療育相談につながりやすい環境の整備
2. 関係機関の連携に対する市の積極的な関与
3. チームブルー閉所後の初回面談の早期完了
4. 相談支援体制の抜本的な立て直し
5. 療育拠点整備の早急な具体化
6. 新庁舎移転に伴う子育て支援機能の強化
7. 宿泊を伴う短期入所の受け皿の確保
8. きょうだい児を含めた家族支援の強化

三浦市の学校教育環境について

現在、本市の教育行政における重要課題の一つが、**三崎地区の小学校再編**です。児童数の減少に伴い、統廃合検討対象校とされた剣崎小学校、南下浦小学校、三崎小学校のうち、令和6年度末には剣崎小学校と南下浦小学校が統合され、現在は三崎小学校が対象校として残されています。

学校再編を判断する大きな契機となるのが、**異なる学年の児童が一つの学級で学ぶ複式学級化**です。三崎小学校は、現在の児童推計では令和13年度に複式学級となる見込みです。しかし、実際には**もっと早いタイミングで複式学級の編制基準に該当してしまう可能性**もあり、先行きは不透明な状況です。

《再編方針の議論に時間的猶予がない理由》

- ・ 複式学級の編制基準は、原則として「隣接する2学年の児童数が合計16人以下」となること（この人数に特別支援学級の児童数は含まれない）
- ・ 令和10年度には、隣接する2学年の合計が18人となる学年構成が見込まれており、特別支援学級の児童数によっては、当該2学年の児童数が編制基準に該当する16人以下となる可能性がある
- ・ 令和10年度の教員配置に向け、令和9年度中に県との協議や必要な予算措置を進める必要がある

複式学級は、年度ごとの学年別児童数に応じて、下の学年から編制されます。一度組み合わされた二つの学年がそのまま持ち上がるとは限らず、同じ児童が複式学級と単式学級を行き来する可能性もあるのです。また、児童数が少ないほど、男女比が偏るリスクも高まります。こうした懸念からも、私は**本市の学校における複式学級化は避けるべきだと考えます。**教育現場が混乱し、その負の影響がこどもたちに及ばないように、今年度中に再編の基本方針を固める必要があります。今後は、当事者や地域関係者で構成される地域協議会の意見を踏まえながら、教育委員会が方針を決定していくことが確認されました。

また、剣崎小学校と南下浦小学校の統合で得られた知見を、今後の再編方針に生かすことも重要です。本年の3月議会で、こうした過去の経緯を十分に把握しようとししない姿勢が明らかになった出口市長に対しては、あらためて問題提起を行いました。あわせて、**統合後の南下浦小学校の全児童・保護者を対象としたアンケートを早急に実施するよう提言し、教育長から前向きな答弁を得ました。**

学校がさまざまな意味で地域にとって大切な存在であることはもちろんですが、**学校は何よりもまず、こどもたちの学びの場**です。統合そのものを目的とすべきではありませんが、児童数が減少する中で、望ましい教育環境をどう確保するのか。**私たち大人が、この切実な課題から目を背けてはなりません。**

このほか、本市のグローバル教育とキャリア教育についても、個人的な問題意識や具体的な政策提言を交えながら議論しました。

発言の中での主要要望

1. 市長と教育委員会の対話による関係修復
2. 市長の考えのみに左右されない教育行政
3. 地域協議会の意見を尊重した再編方針策定
4. 過去の学校統合に対する市長の理解深化
5. 南小の児童・保護者へのアンケート実施
6. 地域資源を生かしたグローバル教育の推進
7. 新たな国や地域との交流機会の創出
8. キャリア教育のための地域人材バンク制度